

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告

< 58 2011.12.11 > 連絡先 402-1622

ワクチン接種の継続を

一般質問から

12月2日(金)一般質問を行いました。

子どもたちの健やかな成長を願って、こんにちは赤ちゃん事業の充実と、親の健康教育の必要性を訴えました。また、今年度取り組まれているヒブワクチン・小児性肺炎球菌ワクチン及び子宮頸がん予防ワクチンの接種について、今年度末で国の補助は終了の予定です。来年度については、予算編成時に考えることにはなっていますが、まだはっきりしません。国が引き続き補助を行うにしろ行わないにしろ、引き続き接種が必要であり、その際には、市民負担が増えないよう、求めました。



市はこの13年間に職員を4000人から3000人にと4分の3にまで減らしてきています。その結果、市民サービスが低下し、民営化がすすみました。一方この間、職員の病気休暇や休職が増え、そのなかでも4割以上の方が精神を病んでいます。職員を減らすことで、業務に支障が出て市民サービスがさらに低下することのないように、また職員の過度の負担増で病む人が増えないよう、求めました。



学校の教職員の多忙化も深刻です。「朝から夕方まで休憩はできない、トイレにも行けない」という教職員の声を紹介し、2006年に文部科学省が実施した教員勤務実態調査もしめして、解消をするためにはまず人の配置が必要だと、強く求めました。

みち子のひとりごと ひとりごと



毎日の暮らしの中では、楽しいことばかりではなく、悲しいことやしんどいこともあります。でも、生きていくからこそ、喜びも悲しみも感じられます。未来を生きる子どもたちの姿に癒されもします。気温の変動が大きい日々が続いています。くれぐれもお身体に気を付けて、お過ごしくださいませよ。

子どもたちが子育てブログを書いています。遠くいながらにして、孫たちの成長の様子がわかるのは、うれしいものです。先日はブログを開くと目に飛び込んできたのが、孫の口の中のアップ写真。歯が見えてきたと、うれしそうなコメントがついています。上の孫は、クリスマスがうまく言えなくて「くみむます」とか…。壁に向かって立ってる写真には、「何してるの」と聞いて「かくれんぼ」という返事が、というほほえましいコメント。

廃棄物処理に関して

渡辺議員の質問から

一般廃棄物、産業廃棄物に関して、日本全体でその対策が求められてきています。既存の施設のあり方や、最終処分場の処理能力の問題、また処理・処分にかかる費用の増大は避けられません。さらにそのことは、市政への影響のみならず、国民生活、事業活動にも大きな弊害となつていきます。また、廃棄物問題は環境問題とも深く結びつき、その対策は放置できません。様々な資源を大切に利用し、廃棄物による環境への影響をなくすためには、廃棄物の減量化と再資源化の徹底、及び処理もできないほどの廃棄物を発生させる拡大生産と、「使い捨て」を規制することが本質的な解決の道です。

そして、「大阪湾圏域広域処理場整備基本計画」（大阪湾フェニックス計画）は、見なおしが行なわれ、平成33年までの計画であることと、その後についても延伸を検討中であり、廃棄物の処分については逼迫した状況ではないことを明らかにしました。さらに、市が排出している廃棄物の再利用をすすめるなど減

量化を求め、大量排出事業者へ指導するなど、「廃棄物ゼロ」をめざして、「産業廃棄物審議会」を立ち上げるよう求めました。



最終処分場計画について

南畑議員の質問から

滝畑、山口地域に建設されようとしている産業廃棄物最終処分場について、地元住民のみならずはもちろん、周辺自治体等の方々から不安と反対の声が強まっています。安定型産業廃棄物最終処分場について学習すればするほど、いのちと健康、暮らしにかかわる大きなリスクを背負うことになるとの思いが強

くなつていきます。住民のみならずの思いをしつかり受け止め取り組んでいくと、まず決意を述べました。

最終処分場建設計画について周辺自治体も含め、41の課から意見書が出ているが、肝心の市の産業廃棄物課から意見がない、たとえば、産廃を運び込むトラックの台数や運行時間帯を

確かめる、住民説明を果たすようにと業者に求めるのも産業廃棄物課の仕事ではないかと、住民の声を事業者に届けるよう指摘しました。

また、市の方針でもある「自区内処理」を、責任を持つて果たすために先進施策を調査・研究することや要綱を持つことについて直ちに取り組むことを求め、要綱なくして事業者に「自区内処理」の推進を實行させることはできないと、質しました。

さらに、今回作られようとしている処分場が中核市で、面積では2番、容量では1番の大きさであることを明らかにし、和歌山市を「最終処分場のまち」にしたいのかと迫りました。

